



山形浩生の
世界を読み解く
叢智
結局、そういうことだ。

Yamagata Hiroo

著作・翻訳家。1964年、東京生まれ。東京大学およびMIT修士課程修了。某大手シンクタンク勤務の傍ら、経済、ITなどの分野で活躍。「要するに」(河出文庫)、『たかがバロウズ本』(大村書店)など多数。
<http://cruel.org/jindex.html>

ナノもネットブックも、おおかたのメディアはユーザー人気と乖離した、的はずれの評価



冷やかな自動車系メディアの反応とは裏腹に、大人気を博しているタタ自動車のナノ。これまでのクルマの概念を、ユーザー側から変えてくれる存在かもしれない



ネットとメールがメインで、小型軽量、低価格が魅力のネットブック。エイサー、アスースなどが代表的なメーカーだ。X編集部員も5人中2人が所有

前 回、インドのタタ自動車の発表した超低価格車ナノについて触れた。その後、実際の発表があり、試乗レポートなどもあちこちに出回るようになっている。

全般に既存自動車系メディアの反応は冷やかで、あれがない、これが駄目、安全性に不安、環境への影響が、目新しいものがない、エアコンつけたらかえって割高云々とケチをつけるのが流行のようだ。ぼくが見たところ、その多くはほとんど揚げ足取りか印象批評だ。安全性はかなり考えられているし、エンジンも結構クリーンだし、安く抑えるための工夫も様々だし、エアコンがほしい人が買うことを想定した車じゃない。こんな低価格ではとても利益が出ないから自動車業界としてうれしくないというような変なコメントも見かけた。唯一、好意的だったのはイギリスの『エコノミスト』で、ちゃんとこの車がどういう層を狙ったものかを理解したうえで、高い評価を与えているのは立派。この自動車のいろんな工夫もきちんと評価したうえで、さらにもっと広く、今後の

世界のイノベーションが先進国よりも新国から出てくる動きの先鞭として位置づけられている、とても感心。儲けが出ないかどうかは、タタ自動車が心配すればいいことで他の人がとやかく言うことでもないけれど、これが新しい車のジャンルを作り出したということ自体は文句なしにタタ自動車の手柄だ。

そして一方で、ナノの人気は上々。予約いっぱい、抽選でしか買えず、しかも本体価格の八割近い申込金があるという高いハードルなのに、行列状態。まだ目新しさや話題性だけで売れているのかもしれないけれど、ぼくは実際のニーズもあると思う。貧乏世帯はもとより、二十万くらいの車なら、金持ちが二、三台ほど遊びで買っているという需要だってかなりあるはず。ばらしてエンジンや車体だけ別のものを使う利用も、やがて顕在化してくるはず。車の使い方自体変わるかもしれない。それは既存の自動車業界や自動車メディアがまったく考えていない部分だ。それが本当にうまくいくかはわからない。が、実は最近ぼくたちは、

このナノやそれに対する既存業界とメディアの反応とまったく同じパターンを自撃したばかりではある。それは、いまやパソコン業界の大きな波となりつつあるネットブックだ。

機能限定、画面も小さく、動画やゲームをバリバリ処理するようなものではないけれど、携帯性に富み、メールとウェブ閲覧くらいこなせればいいや、という発想で、アスースを初めとする台湾メーカーがどつと発表した各種のネットブックは、お値段ほんの三万円かそこらという超低価格で人々を驚かせたし、いまや一大潮流となって各社が次々にバリエーションを出して落とすところを模索している状況だ。

そしてそのときも、多くのメーカーやメディアはあまり色よい反応を見せなかった。あれができない、これが駄目、画面が小さい、処理能力に限界、安っぽい云々。大手メーカーは「あれはウチが出す水準のものではない」と一蹴してみせたりもしたし、利ざやが薄くて他のメーカーは手を出さないキワモノ、ニーズは限定的だとかニッチやマニア向けとかくさしてみせる評論家も出た。

でもネットブックは大きく売れた。すでに景気後退が見え始めていたところで、目新しいおもちゃがほしいけれどあまりお大尽な買い物はできない層がとびついたし、限定的な利用しかしない利用者はたくさんいた。残念ながら、まだそれがいままではちがうパソコン利用形態を提案するまでには至っていない。でももう少し練れてきたとき、新しい使い方も出てくる可能性はかなりある。これまでもつも鳴かず飛ばずだったタブレット式のPCなんかネットブックと交配させると意外にいいものになるかもしれない。

ぼくは、ナノが作り出す新しい車のジャンルも、このネットブックみたいなものになるんじゃないかと思っている。ぼくまぢがいないか、中国の自動車メーカーがナノもどきの人民自動車を出してくるでしょう。先進国は、しばらくは各種規制で数十万の安手自動車の上陸を阻止するかもしれないけれど、でもやがてパソコンメーカーのように、自分たちも何らかの対応を余儀なくされるんじゃないかと思う。